

きぼう

【編集・発行】
 社会福祉法人全国社会福祉協議会
 国際社会福祉基金委員会
 〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル
 JAPAN NATIONAL COUNCIL OF SOCIAL WELFARE
 INTERNATIONAL SOCIAL WELFARE FUND COMMITTEE
 4F Shin-kasumigaseki Building, 3-3-2 Kasumigaseki,
 Chiyoda-ku, Tokyo 100-8980
 TEL: 03-3592-1390 FAX: 03-3581-7854
 E-MAIL: z-kokusai@shakyo.or.jp
 URL: http://www.shakyo.or.jp/

Vol. 88 | 2022.12.15

もくじ

- P.1 日本とアジアのつながりの場として～第4回修了生とのオンライン交流会～
- P.4 アジア研修が生んだ「絆」と通じ合う「こころ」
- P.6 修了生はいま……
- P.8 国際交流・支援活動にご協力ください ほか

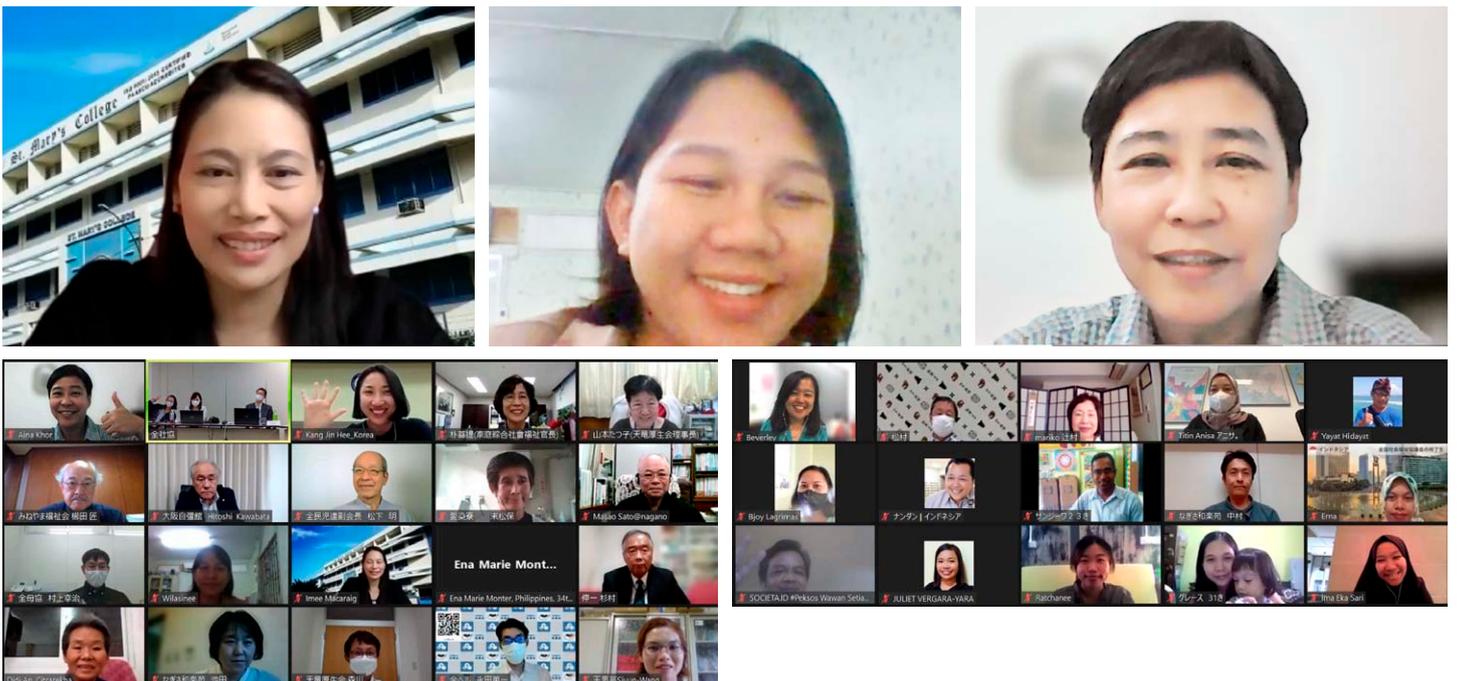
日本とアジアのつながりの場として ～第4回修了生とのオンライン交流会～

9月22日、アジア社会福祉従事者研修の修了生と、国内の福祉関係者が情報共有を図る交流会を、オンラインで開催しました。本交流会は、新型コロナウイルス感染拡大により、アジア社会福祉従事者研修や各国へのスタディツアーの実施を見合わせるなか、研修修了生やアジアの福祉現場とつながり続ける場を設けることを目的に、2021年2月より実施しています。

第4回の開催となった今回は、修了生の母国での福祉活動を支援する「修了生福祉活動助成事業」において、2021年度に助成を受けた修了生3名が、実施し

た事業の意義や成果を報告しました。

開会挨拶で国際社会福祉基金委員会・湯川智美委員長は、9月18日に発生した台湾の地震について、台湾の修了生にお見舞いを伝えました。そのうえで、「新型コロナウイルスの流行により、さまざまなことが制限されているなかでも、修了生への助成事業は継続している。また、休止しているアジア社会福祉従事者研修については、来年より再開できるよう準備をすすめている」と述べ、事業の推進に向けて理解と協力を求めました。



■ 報告内容

「地域に根ざしたプログラムを通じたコミュニティの組織化とその影響の評価研究」

イメルダ (フィリピン・13期)

セントメアリー大学
コミュニティサービスセンター



2017年からの5か年プロジェクトとして、ソーシャルワーカーが地域住民とともに生活改善に取り組む事業を実施しました。

【主な活動】

- コミュニティの情報収集
- リーダーシップ研修
- 陶器づくり等生計を立てるためのセミナー
- 廃棄物管理や災害準備についてのセミナー 他



「コロナ禍でのコミュニティにおける子どもたちや住民のための健康促進」

ウィラー (タイ・35期)

タイ・ホリスティック・ヘルス財団



活動地域の子どもたちや住民の健康促進を目的に、共同でのキノコ栽培・販売や消費等を通して、コミュニティ内の連携強化を図るよう支援しました。

【主な活動】

- キノコの栽培方法についての研修
- キノコ農場づくりと植え付け
- キノコの加工・調理方法についてのワークショップ
- コミュニティ・キッチンの実施



「知的障害者のための家内織物プロジェクト」

アイナ (マレーシア・9期)

アジア・コミュニティ・サービス (ACS)



知的障害者の在宅での就労環境を整備することを目的として、知的障害者の家庭に織機を提供し、家族の協力を得ながら使い方を伝え、在宅就労を実現させました。

【主な活動】

- 持ち運びでき低コストな織機の調査・購入
- オンラインで織機の使い方を伝えるための動画・マニュアルの作成
- 織機の使い方に関するオンラインワークショップ
- オンラインワークショップのフォローアップ
- オンライン環境を用意できなかった家庭への訪問



意見交換（主なやりとり）

Q マレーシアでは、民生委員のような、地域で課題を抱える人とサービスをつなぐ役割を担っている人はいるか。

せっかくのサービスが行き渡るような仕組みがあればいいと感じた。

A 日本のように地域の人びととサービスをつなぐ、組織化されたボランティア団体はない。ボランティア活動は、NGO や宗教ベースの団体が担っている。（アイナさん・マレーシア 9 期）

Q マレーシアでは、コロナの感染拡大によってロックダウンが行われたが、その期間に福祉施設は休業したのか。一部はサービスを提供したのか。

日本では、学校は休校しても、福祉施設は休業しない方針だった。幼稚園は休園しても保育所は休業しなかった。国や地域により政府の方針がずいぶん違うと感じた。

A 約 2 年にわたり、何度もロックダウンが行われた。誰もどうすべきかわからなかったので、教育機関の方針に従って休業とした。いまでも、SOP（標準作業手順）という政府が定めた規定に従う必要がある。政府は、福祉施設で運営を続けクラスターが発生した場合には、多額の罰金など厳しいペナルティを課した。それにより、どの団体も政府の方針に従った。（アイナさん・マレーシア 9 期）

Q 他の国・地域でも、福祉施設は閉所されたか。

A 感染状況がひどい時は、学校も福祉施設も休業したが、その状況のなかでできるかぎりの福祉サービスを提供した。ソーシャルワーカーは訪問や、オンラインによるサービス提供を続けた。（ガンジンヒさん・韓国 26 期）

A 福祉施設は 3 か月ほど、学校は 6 か月ほど休業した。2021 年 9 月頃から従来の生活ができるようになったが、施設では検査を週に 2 回行うなど厳しく健康観察を行っている。たくさんのマスクが必要になるので、財団でマスク工場を創設した。（ワンシユンさん・台湾 31 期）

参加者からの声

- どの発表も具体的で、事業を実施する様子がよく伝わってきた。
- 修了生たちが、日本語で発表に取り組んでいることが素晴らしいと感じた。
- たくさんの修了生が、帰国後もそれぞれの場所で精一杯輝いていることに、とても感銘を受けた。
- 苦しい時も楽しい時も国を超えて共有できる仲間がいることは、とても心強いつと感じた。
- パンデミックにより困難な状況がまだ続くが頑張りたい。日本でもできることが制限されてしまっているが、できることを探し工夫していきたい。また、新型コロナと寄り添いながらできることを検討していきたい。

アジア研修が生んだ

「アジア社会福祉従事者研修」の施設研修を受け入れてくださっている社会福祉法人・施設の皆さまより、研修を通じて感じたこと、国際交流についてのご意見などをお寄せいただきます。



中尾 愛

社会福祉法人 八尾隣保館
ルフレ八尾

「ジュリエットさんの母国での活躍が刺激になっています」

八尾隣保館ルフレ八尾は昭和10年に、中村三徳が「大毎記念中村塾」を八尾市に設立し、今もお地域福祉に尽力している施設であり、85年の歴史と実績を重ねています。「信頼、創造、貢献」を法人の理念としてよりよい福祉の実現をめざしており、当法人では今まで5名のアジア研修生を受け入れさせていただきました。

2019年に来られた36期生のジュリエットさんは、福祉への関心や思いが大きく、どんなことにも興味を示すとても活発な女性でした。子どもたちとも、いつも笑顔で楽しそうに遊んでいました。言葉がうまく通じない時でも持ち前の明るさで周りの雰囲気を変える力を持っており、子どもたちからすぐ愛されていました。研修は、ルフレをメインとしながらも、ジュリエットさんの希望もあって、勉強のため法人内の他部署にも行き、さまざまな業務を体験してもらいました。どの部署でも、ジュリエットさんの明るい笑い声が響いており、すぐに人気者になっていました。

そんないつも元気なジュリエットさんが研修中に風邪をひいて高熱を出した時がありました。その時は、施設長もとても心配して、二人ですぐに駆けつけたことを今でも鮮明に覚えています。お腹も空いている

だろうと思うどんを作ってあげると、フィリピンの家族を思い出したのか涙を流しながら食べていました。この時、異国の地で弱音をはかずに頑張っていたジュリエットさんの本当の気持ちや姿を垣間見ることができ、3人で心を通わせながらたくさん楽しかった話や辛かった話をしたのは今となっては良い思い出です。この出来事があってから、どんなことでも話し合える仲になりました。研修最終日、駅の改札口に何度も何度も戻ってきて泣きながらさよならをした姿を忘れることができません。そのくらいジュリエットさんと私を含めた職員との絆は強くなっていたのだと思います。ジュリエットさんは、今でもまさしく八尾隣保館の一員です。

研修が終了してからも、ジュリエットさんとは頻繁に連絡を取っていて、必ず記念日には手作りの動画のプレゼントをしてくれます。人として、本当に温かく、尊敬ができる、私にとっては大切な妹のような存在です。ジュリエットさんが母国で活躍している姿をみて、私自身とても刺激になっています。

違う国の人びとが、言葉の壁を越えて、福祉の現場で学びを深めていく、国際交流は素晴らしい事業であり、受け入れさせていただく私たちとしても成長できる、世界の社会福祉を目の当たりにできる、とても貴重な機会だと思います。末永くこの研修事業が継続されることを祈っております。



「絆」と通じ合う「こころ」

今回は、第36期第2回施設研修にご協力いただいた社会福祉法人 八尾隣保館で、研修生の受入をご担当された中尾愛さんと、八尾隣保館で研修を経験したジュリエットさんに、それぞれの視点から思い出を綴っていただきました。

私は最初のころ、日本語を学ぶのに苦労した研修生の一人でした。私はほとんどあきらめていて、自尊心を失っていました。

しかし、幸いなことに、大阪に行ってすべてが変わりました。

八尾隣保館はまるでわが家のような感じでした。私の学習のために可能な限り日本語に触れることができる機会を私に用意してくださったおかげで、期待していた以上に多くのことを学ぶことができました。

また、八尾隣保館での3か月半の滞在は、トレーニングやスキルアップだけではなく、皆さんが明るく親切で、日本の文化を愛することを学びました。八尾隣保館では私は受け入れられ、尊重され、愛されていると感じていました。

私がひどい病気で入院していたとき、みなさんがどのようにお世話してくださったかを思い出します。クリスマスには、研修担当の方がたが、お気に入りの寿司レストランに連れて行ってくださいました。その方が

たと美しい景色の場所を訪れたのも忘れられない時間です。駅で涙を流して別れを惜しんだことは、少し恥ずかしかったのですが、とても楽しい思い出です。最後の日の優しい言葉と、さようならのメッセージには本当に感動しました。これらのことは私が最も大切にできた感情と経験であって、生涯感謝したいと思っています。

幸運にも、奈良で研修担当・中尾先生のご家族に会うことができました。この日は日本滞在中で最高の日になりました。八尾隣保館は私の「家」であり、中尾先生のご家族が住んでいらっしゃる奈良で「家族」を見つけました。中尾先生のご家族から「ジュ

ジュリエット

(フィリピン 36期)

「国境を越えて、私は家族を得ました」



リちゃん」と呼ばれて、とてもうれしく思いました。大阪弁を含め日本語は今でも得意ではありませんが、家族の皆さんとの関係を深めるうえでの障害にはなりません。家族の一員であるという意識は、言葉の違いを越えるものです。

日本での研修からほぼ2年が過ぎましたが、八尾隣保館の方とのコミュニケーションは続いています。

パンデミックのせいで仕事を失った人びとのために、「コミュニティパントリーホイール」というボランティアプロジェクトを組織した際も、八尾隣保館は後押ししてくださいました。また、保護と助けを必要としている日本人のクライアントを抱えた際にも、中尾先生にアドバイスをお願いしました。

私と中尾先生との関係は、職業上の関係を超えて、私にとって姉のようです。先生とご家族は、悲しいことも幸せなことも、私の人生で起こった重大な出来事をすべて知っています。定期的にビデオ通話やLINE メッセージのやり取りをしていて、中尾先生のお母様も私を実の娘のように接してくださいました。

私は月に2、3回、日本語の勉強を続けています。東京在住の日本語の先生は、私を激励し、ZOOMを使って私の日本語を改善するのを辛抱強く手伝ってくれています。

日本での素晴らしい経験と、研修旅行で出会った人びとが、日本語の勉強を続けるきっかけとなりました。私は、宝物の一つである第二の故郷の家族の元に帰ることを、楽しみにしています。

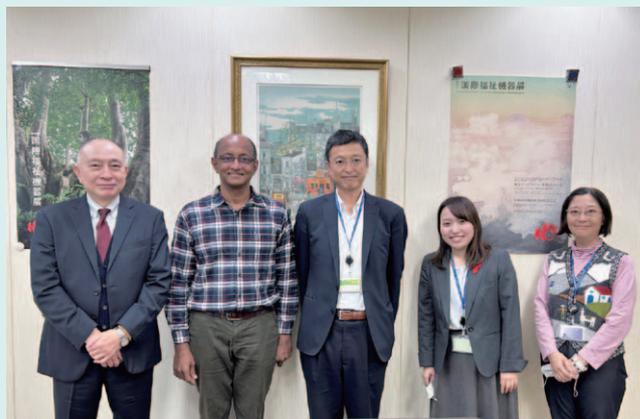


修了生はいま……

2020年3月よりおよそ2年半もの間、新型コロナウイルス感染拡大により、アジア各国・地域の修了生との対面での交流ができませんでした。しかし、本年10月からようやく国際的な往来が再開され、2名の修了生が全社協を訪問しました。

10月28日、スリランカ第2期修了生 セートウンガさん(写真左から2番目)が来られました。セートウンガさんは、これまで長きにわたりスリランカから研修生を推薦していただいている団体「NESEC財団」の運営委員会委員長を務めています。

来年度から開始する「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクトにおいても、スリランカのPT(プロジェクトチーム)の一員として、ともに事業に取り組んでいます。



11月11日、韓国第30期修了生 パクヒョンソンさん(写真右から3番目)が来られました。パクさんは、10月に韓国で初めての重症心身障害者の短期居住施設を数名のチームで立ち上げました。チームのメンバー4名とともに、能力向上を目的とした研修のため来日し、重症心身障害児施設や全社協を訪問しました。



「2022年重症心身障害者緊急随時ケア365ハンアラム日本海外研修」

国際社協だより

〈韓社協の訪問〉

10月3日から10月5日にかけて、韓国社会福祉協議会のス会長(写真左から3番目)が、国際福祉機器展2022(以下、HCR)を視察するために来日しました。

3日に全社協、4日にロフォス湘南を訪問し、市区町村社協の取り組みや研修事業等について意見を交わしました。5日にはHCRに参加し、全社協の清家会長や海外コーディネータと意見交換を行い、会場を視察しました。



修了生たちから、母国での活動のようすが届きましたので、ご紹介いたします。

スリランカ第4期アーリヤダーサさんより、2022年度修了生助成事業の報告が写真とともに届きました。

サハナサラナ財団では、糖尿病や高コレステロール、高血圧を患っている高齢者のイベントを実施しました。イベントでは、メンタルヘルスを改善する歌や踊りのプログラムを行いました。また、会場には、医師が診察を行い、医薬品を提供するクリニックを設け、参加者が適切な医療を受けるように促しました。



インドネシアでは、第37期アジア社会福祉従事者研修の研修生選考会が行われ、第23期ナンダンさんから写真とともに報告が届きました。

ナンダンさんはインドネシアの研修生推薦人を務めています。

来年3月からの研修再開にあたり、インドネシアではナンダンさんをはじめ、ノルさん（18期）、エレナさん（28期）、ジョコさん（32期）、イマさん（36期）によって研修生選考委員会が組織され、候補者との面接が実施されました。



〈北東アジア地域シンポジウム〉

10月27日、国際社会福祉協議会（ICSW）北東アジア地域（NEA）シンポジウムが、韓国で開催されたICSW世界会議にあわせて開催されました。「北東アジア地域におけるコロナ禍の児童・青少年」をテーマに、各国・地域から発表、意見交換が行われました。

全社協からは、コロナ禍によって現れた親の就労環境や家庭生活への影響、心身の不調や児童虐待リスクの高まり、ひとり親家庭などにおける生活困窮といった課題を報告し、子ども・子育て家庭に対する施策や、居場所確

保、オンラインによる子育て支援などの実践等を紹介しました。また、各国・地域からは、特別支援教育を必要とする未就学児の支援（香港）、パンデミック前後における子どもたちの日常生活の変化（韓国）、経済的苦境に伴う学業への影響や新たな貧困層の出現（台湾）などが報告されました。シンポジウムを通し、コロナ禍において子ども・子育て家庭で共通して見られる困窮や孤独・孤立等の課題、そして、地域の機能を連携・協働させた支援の実践等を共有する機会となりました。

国際交流・支援活動にご協力ください

全国社会福祉協議会では、次のようなアジアへの国際交流・支援活動に取り組んでいます。

アジア社会福祉従事者研修

アジアのソーシャルワーカーを日本に招へいし、11カ月間の研修を行っています（来年3月より再開予定）。同じ福祉の仲間として“顔の見える”関係づくりを積み重ねてきました。

修了生福祉活動助成事業

アジア社会福祉従事者研修を終えた修了生による母国での活動（虐待や搾取に苦しむ女性や子どもへの支援、保健衛生の向上等）を支援します。

アジアのネットワークづくり

各国・地域の福祉事情や実践を学び、情報交換を行うスタディツアーや日韓台会議のほか、昨今はオンラインでの交流会を開催しています。

災害時福祉活動支援

アジア地域で大規模な災害が発生した際は、広く日本の福祉関係者に拠金等を呼びかけます。スマトラ沖地震やフィリピン台風等での現地の支援活動を支援しました。

2023年
スタート!

「アジアの子どもたちに寄り添い、育む」プロジェクト

困窮する子どもの自立支援を目的に、修了生によるネットワークを通じて経済的・心理的な支援を行います。

経済的支援：子どもの教育や就労にかかる費用（学用品の購入や職業訓練費）

こころの支援：国際交流・支援活動会員と子どもの間でのメッセージ交換など個々に応じた交流・支援

〈国際交流・支援活動会員 会員区分一覧〉

会員区分	国際交流・支援活動への参加	国際交流・支援活動への拠出	育むプロジェクトへの参加	育むプロジェクトへの拠出
法人・組織会員 (1口 50,000円)	●	●	●	●
個人会員 (1口 5,000円)	●	●	●	●
賛助会員 (1口 50,000円)		●		●
新規 育むプロジェクト支援会員 (1口 5,000円)			●	●

※今年度から育むプロジェクト支援会員を新設しました。なお、法人・組織会員、個人会員もプロジェクトに参加できます。

(2022年度) 国際交流・支援活動会員にご登録いただいた会員の皆さま

ご登録ありがとうございます。お寄せいただきました会費は、国際社会福祉基金への拠金として受け入れ、大切に使用させていただきます。

ご登録いただいた法人・個人の方（敬称略） 2022年12月15日現在

【法人・組織会員、賛助会員】

ひとつの会（山口県）／小諸青葉福祉会 やまびこ園（長野県）／昴（埼玉県）／ミッドナイトミッションのぞみ会（千葉県）／堺暁福祉会（大阪府）／愛里巣福祉会（石川県）／祉友会（兵庫県）／村山苑（東京都）／大阪自彊館（大阪府）／夕陽会 本福寺こども園（滋賀県）／天竜厚生会（静岡県）／くすの樹会（福岡県）／中心会（神奈川県）／誠信会（静岡県）／神奈川県匡済会（神奈川県）／静岡恵明学園（静岡県）／大阪府社会福祉協議会（大阪府）／成寿会（秋田県）／愛生会（秋田県）／ふじ福祉会（大阪府）／聖徳園（大阪府）／土佐厚生会（高知県）／常盤会（鹿児島県）／六親会（千葉県）／真宗協会（北海道）／梓友会（静岡県）／みねやま福祉会（京都府）／恵の園（群馬県）／成光苑（大阪府）／国際保健支援会（長野県）／晋栄福祉会（大阪府）／徳心会（東京都）／福寿園（愛知県）／あすなろ会（島根県）／慈愛会（福岡県）

*以上、社会福祉法人

(公財) 鉄道弘済会（東京都）

【個人会員】

谷 由紀子／小林 大眞／栗和田 敏／小林 和弘／三上 智代／齋藤 霊一／高山 科子／石井 美奈／小林 佳之／松原 勇作／下山 當子／高塚 政生／塘林 敬規／村上 義孝／松下 明 ※その他9名様（本会役職員含む）

【育むプロジェクト支援会員】

東総あやめ会（千葉県） ※その他2名様（本会役職員含む）

国際交流・支援活動会員の募集について
詳細はパンフレットをごらんください ➡

